

第18回新しい資本主義実現会議意見書

2023年5月16日

株式会社経営共創基盤 (IGPI)

IGPI グループ会長 富山和彦

- ・不確実な時代に確実に起きつつある変化
 - －生成 AI や GX を含む破壊的イノベーションで既存の産業、企業、職種の多くはさらに破壊され付加価値を生まなくなる
 - －少子高齢化による生産労働人口の減少でこの国は人類史上稀にみる人手不足時代に突入する
- ・持続的な賃金上昇の絶対条件
 - －産業と企業の新陳代謝が進み付加価値生産性の高い産業、企業へと交代、変容、再編が進むこと
 - －産業の壁、企業の壁を超えた高成長、高付加価値産業への労働移動が進むこと
- ・今、もっとも破壊の危機に瀕しているのは、メンバーシップ型ホワイトカラー中間層
 - －ジョブ型&外部労働市場シフトについて悠長なことを言っている場合ではない（自動車が発明されたら、あっという間に馬飼いや、馬車メーカーも、御者も不要になる）
- ・私が100社をはるかに超える多数の、そして規模も大中小様々の企業再生、事業再生、産業再生案件で見てきた現実・カネボウ、三井鉱山、ダイエー、JAL、日光鬼怒川旅館群、地方バス会社、地域卸商、瓦メーカー等
 - －「日本型ホワイトカラー」という職種の市場価値の無さ→だから、働き手は社内労働市場に低賃金でもひきこもる
 - －経営者保証問題等で早期（安易？）に退出、再生モードに移れない→だから、経営者は不当解雇やブラックな労働者搾取を行ってでも会社の延命に走る
- ・私が労政審基本部会で見えてきた政策形成の現実
 - －政策形成スピードがあまりにも遅く、時代の変化について行けない（5年～10年遅れ）
 - 「労政審に持っていく」≒5年から10年は大きな変革はない
 - －3者構成と言うけれど、社会的包摂性を失いつつある

- 支配的世界観（労使ともに）は上記の「確実に起きつつある変化」と真逆
 - ・雇用流動化→失業増か非正規への転落→労働者は不幸になるに違いない
 - ・企業の新陳代謝→失業増か非正規への転落→労働者は不幸になるに違いない
- 沈みゆくタイタニックのなかで、数が減り続けるパーティーの席順について延々と議論しているようにさえ見える、外の世界では人手不足と技術革新でどんどん新しいチャンスが生まれているのに・・
- いい加減、世界観を根本転換しないと世の太宗の人々、特に将来世代の役に立てない
- ・失業保険の給付開始時期や退職金の税制優遇を含め、あらゆる労働市場に関わるルールを終身年功型キャリア形成か転職型キャリア形成かについて徹底的に中立化すべし
 - 中途半端な妥協はあり得ないし、時間的先送りもあり得ない